

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 引野 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

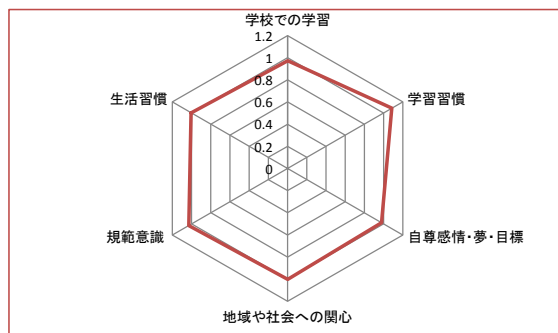
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.0	75	5.4	60	22.6	63	6.1	44	17.3	64
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均をかなり上回っている。 ・話すこと・聞くことの領域が特にすぐれている。 ・日常的に、自分の考えを書く習慣をさらに身につけさせたい。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	話し合いの話題や方向をとらえて的確に話す問題や、漢字の読み書きの問題では、特に正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く問題が、正答率がやや低かった。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均をかなり上回っている。 ・書くこと、読むことの領域が特に優れている。 ・意味のある問いや課題で、話し合い活動をさらに充実させる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	文章とグラフの関係を考えながら内容を捉えたり、目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く問題では、特に正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す問題が、正答率がやや低かった。	
数学A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均をかなり上回っている。 ・関数の領域や資料の活用の領域が特に優れている。 ・図形の領域の一部の問題で、正答率が全国平均にわずかながら届いていないため、図形に関する技能、知識・理解を一層向上させる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	連立二元一次方程式の解を座標とする点は、座標平面上の2直線の交点であることを理解している問題や多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している問題では、特に正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	ひし形が線対称でも点対称でもあることを理解している問題や回転移動した図形をかく問題、長方形やひし形が平行四辺形の特別な形であることを理解している問題では、正答率がやや低かった。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均をかなり上回っている。 ・数学Aとは逆に、図形の領域が特に優れている。 ・主体的・協働的活動をとおして、他者と考えを比較したり、自分の考えを見つめ直したりすることにより、数学的な事象に関して説明したり、間違いを正したりすることができている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明する問題や問題の中に出てきた人物の計算の仕方を解釈し、数学的な表現を用いて説明する問題、発展的に考え、条件を変えた場合について、証明の一部を書き直す問題では、特に正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉える問題では、正答率がやや低かった。	
理科	全体的な傾向や特徴など	・全国平均をかなり上回っている。 ・第1分野の物理的領域が特に優れている。 ・すべての学習領域において、全国平均を上回っているが、評価の観点における観察、実験の技能については、今後、さらに充実を図る必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	実験の結果を示した表から電流の値を読み取る問題や探究の課程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見だし、探究を深めようとする問題では、特に正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	ガスパーナーの空気の量を調節する場所を指摘する問題や反応時間を測定する装置や操作を刺激と反応に対応させた実験を計画する問題には、やや正答率が低かった。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



**質問紙調査の結果分析**

授業において、課題の話し合い活動で、自分と対話、自分から教へる活動の質問や、生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているかの質問について、全国平均をやや下回っていたが、1学期末に学校独自で調査したアンケート結果では、改善が見られている。

- ・学校から出される宿題を中心として、自主的に計画を立てて家庭学習を行っている生徒が多い。
- ・挨拶を進んで行ったり、学校のルールを守り、生活規律の意識が高い生徒が多い。
- ・将来の夢や目標に対する意識や、地域・社会への関心を高める工夫が必要である。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・生徒が主体的・協働的に、考えを深め、広げ、課題解決できる授業の工夫改善を行う。
- ・学校からの宿題を適度に提供し、家庭学習の充実、課題提出の徹底を図り、各自で内容の理解について意識させるようにする。
- ・学力定着サポートシステム等において、生徒の基礎基本の定着を図るとともに、結果を分析・検証し、弱點の克服に努める。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・日々のきめ細かな指導により、基本的な生活習慣や家庭学習の大切さ、取組の意義について理解させる。
- ・各学年の発達段階に応じた、キャリア教育の視点に立った体験学習を取り入れる。自分の適性を見極めるとともに、夢や目標を実現するための様々な選択について考え、自己実現に向けた実質的、系統的な学習を行う。
- ・各教科等で学んだことが、将来に生かされる指導助言をすることで、自立にむかう心をはぐくみ、実践力をつける。